

第 1 回 筑後川流域水懇談会以降の動き

【R7.3】第1回 筑後川流域水懇談会 設置

<懇談会規約より>

近年の気候変動に伴う降雨の増大や極端化、社会情勢の変化等を踏まえて、筑後川流域の課題や将来の向けた方策等について意見交換し、筑後川水系の「流域治水」、「水利用」、「流域環境」の一体的な取組みに資することを目的

<令和6年度>

<令和7年度>

流域の関係者より意見聴取

【R7.6】「流域総合水管理のあり方について」答申 (国土審議会・社会資本審議会)

<答申の概要より>

治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者が他者を尊重しながら働いて取組を深化させるとともに、流域治水・水利用・流域環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図り、一体的に取り組みことで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。

【R8.2】第2回 筑後川流域水懇談会<今回>

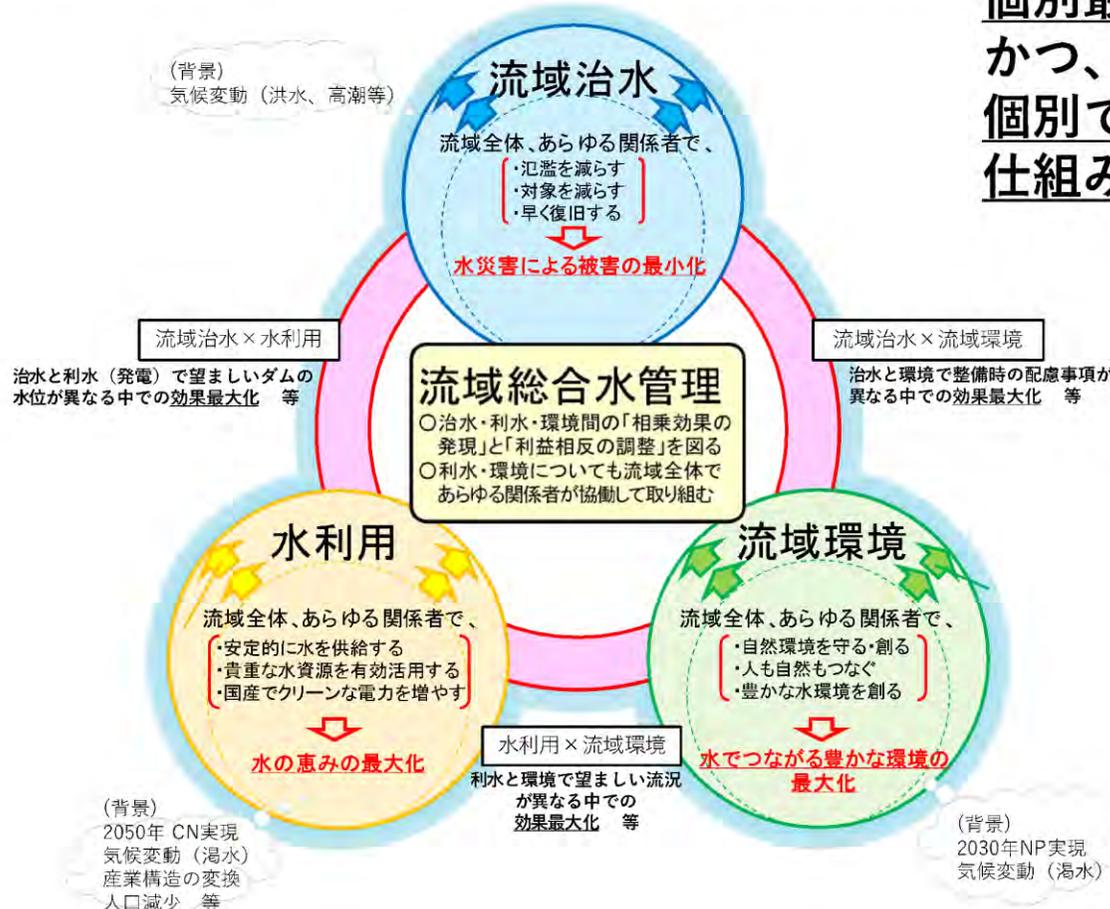
<第2回 筑後川流域水懇談会の主な内容>

- ・意見聴取結果の共有
- ・筑後川における流域総合水管理に関する意見交換

「流域総合水管理のあり方について」答申(R7.6.25)より抜粋

(1)(i)流域総合水管理が目指す方向性

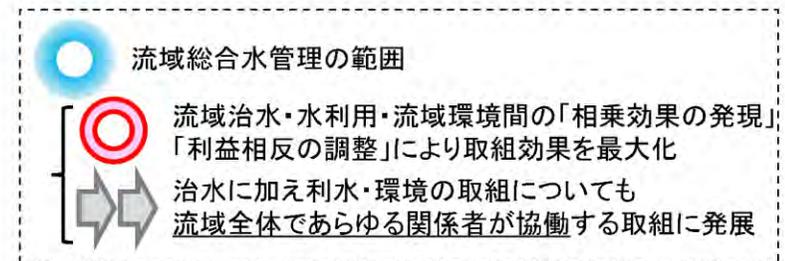
治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者が他者を尊重しながら協働して取組を深化させるとともに、流域治水・水利用・流域環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図り、一体的に取り組むことで「水災害による被害の最小化」、「水の恵みの最大化」、「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。



個別最適から全体最適※へ、
かつ、
個別で見ても今より（少しでも）良くなる
仕組みへ

※個別最適から全体最適へのアプローチの例

- ・流域治水、水利用、流域環境に一体的に取り組む
- ・洪水時、渇水時、平時を一体的に捉える
- ・流域の複数のダムを一体的に運用する 等



(2)流域の課題や多様なニーズ等の共有

- 流域の関係者は多岐にわたり、立場に応じてニーズは異なることから、流域の関係者が流域の課題や水に関する多様なニーズ等について情報共有や意見交換を行うとともに、地域の将来構想についても議論がなされる仕組みの構築が必要。

流域の課題や多様なニーズのイメージ



5年後に工業用水を確保したいけど、このあたりの水利用はどうなってるだろう

今は使っていないダムの容量を柔軟に活用できないか

川の水も使って地域にビオトープをつくりたい

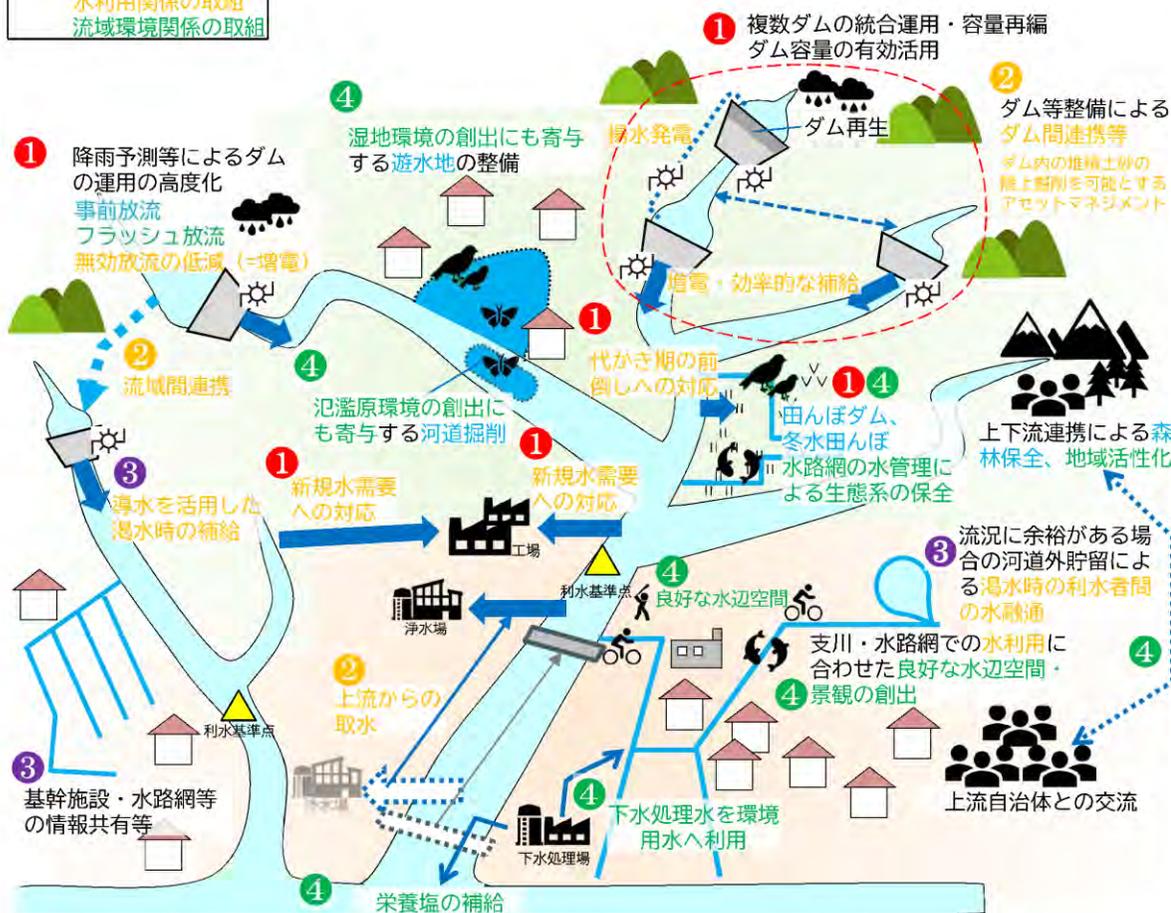
関係者間で流域の課題やニーズに関するニーズ、将来構想等を共有



(4)流域総合水管理の取組(イメージ)

- これまでは、治水・利水・環境それぞれの分野の施策を推進してきたが、全体では必ずしも最適な水管理とはなっていなかった
- 今後は、**流域治水・水利用・流域環境**の一体的な取組を進め、予測技術を活用した複数ダムの統合運用(プール運用)や水路網など流域の水管理による良好な水辺空間の創出など新たな価値を創出し、流域関係者でその価値を共有する仕組みを確立する

凡例 流域治水関係の取組
水利用関係の取組
流域環境関係の取組



- ① 課題や多様なニーズ等の共有
- ② 関係者間のデータ共有・公開
- ③ ニーズを埋める対応策・アイデア
 - ① 既存施設の高度運用等
 - ② 施設整備、施設再編
 - ③ 危機時の備えの強化
 - ④ 流域環境の取組強化
- ④ 新たな価値を共有・調整する手法・仕組み(合意形成の場)
- ④ 技術開発・体制構築等
- ⑤ 成果や教訓の情報発信等

筑後川流域において将来に向けて取り組むべきこと(案)

- 気候変動の影響により頻発化・激甚化する水災害への対応
- 降雨の極端化により頻発化する渇水への対応
- 自然環境の保全・創出、水辺空間の更なる促進に向けた方策
- その他

○久留米市 原口市長

- ・ 寺内ダム再生事業の早期完成を願う。
- ・ 今後気候変動に伴い、雨量の増加が見込まれていることを考慮すると流域全体の安全性の観点から新規ダムの整備なども選択肢に入れていただきたい。まずは流域自治体含め全体でしっかりすべきことをやった上で、流域全体の総意として、国にお願いしたい。

○佐賀市 坂井市長

- ・ 国による抜本的な対策も必要不可欠。
- ・ 次期整備計画においては、巨勢川調整池の増強、蒲田津排水機場の能力アップ、中心市街地の被害軽減に役割を果たす大規模な貯める対策などの内水対策についても国のより一層の関与の検討をお願いしたい。
- ・ 総合水管理の考え方から事前排水後の保水・充水への対応の拡大、市街地水路の水環境の改善、緊急時の水優遇などの治水・利水・環境を一体的に捉えた取組みも進める必要がある。
- ・ 地域にとってメリットとなるような観点からの議論もお願いしたい。

○朝倉市 林市長

- ・ 朝倉3ダム、ダム群連携事業などにより下流沿川の被害軽減に大きく寄与。
- ・ ダムなどの社会資本整備の大切さを確信している。今後、人口減少や生産基盤の変化を視野に入れた施策の検討が流域全体としての課題になっている。
- ・ 既存3ダムのさらなる有効活用の視点から治水機能の強化を軸とし、利水機能の充実も図る効果的な活用策を検討する必要がある。
- ・ 総合水管理（治水・利水・環境）を最大限に発揮できるような流域全体の検討を具体化することが理想。
- ・ 脱炭素の役割を担う視点として、カーボンニュートラル計画を検討していただく必要があると思う。是非お願いしたい。

○うきは市 権藤市長

- ・ 河川のことを知ってもらう・考えてもらう場を作ることも自治体にとって大切なことであり、引き続き支援を願う。
- ・ 大石分水路でかわまちの取り組みを行っていただき、市民の皆様を始め様々な関わりのある方々が増えてきている状態。
- ・ 流域総合水管理の考え方から、流域治水だけでなく流域環境にも今後は力をさいていく。
- ・ 今後うきはでは遊水地の整備も見込まれるため、ビオトープなど自然を取り入れた形にすることで生物多様性を守る、ネイチャーポジティブの考え方に乗っ取った整備を進めていただきたい。

○大刀洗町 中山町長

- ・ 筑後川本川の水位を下げる対策についても検討いただきたい。

○吉野ヶ里町 伊東町長

- ・ 低平地特有の内水被害がある。対策としてクリーク事前排水・田んぼダム等を行っている。
- ・ 筑後川の水位を下げる対策についても検討して欲しい。

○筑前町 田頭町長

- ・ 田んぼダムを実施する中で、雨で田んぼが冠水すると、ジャンボタニシが活発に活動することにより水稻害が起こり、田んぼダム促進の弊害になっているが、田んぼダムを促進していくためのタニシ対策ができれば流域治水に貢献できると思っている。
- ・ ため池の活用を推進していきたい。

○東峰村 眞田村長

- ・ 筑後川の水位を下げるためには、村の中で留めて計画的に流すことが大事。
- ・ 森林整備等を行い、筑後川の流域治水に対応できればと思っている。

○筑後川流域利水対策協議会 吉田事務局長

- ・当協議会では水資源開発は流域優先を原則とし、筑後大堰建設事業に関する基本協定書を遵守していただくこと。
- ・ダム群連携事業・寺内ダム再生事業について、丁寧な地元対応を行い、早期完成に向けて必要な予算確保と着実な事業遂行を行っていただくこと。
- ・現在施行中の3ダム総合プール運用について、早期本格運用に向けた推進を図っていただくこと。併せて筑後川水系全体での効率的な水運用の検討に取り組んでいただくこと。
- ・河川管理施設や水資源開発施設の長寿命化・耐震化を推進していただくこと。
- ・有明海を含む筑後川流域における水源地や河川や有明海の環境保全及び漂着ゴミ対策などの取り組みに対して財政支援をはじめ人的・技術的支援など様々な形の支援を行っていただくこと。

○九州河川協力団体連絡会議流域世話人 川嶋 睦己

- ・これからも筑後川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川の空間・景観を地域住民のみんなで利用・活用できればと思っている。
- ・筑後川の豊かな自然環境を子供の世代、孫の世代まで継承していけるような活動をしていきたい。